

来週の『売り物』記事はこれ



2015年7月31日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

赤紙で招集された女性たち

日赤看護婦が見た戦争

8月2日(日)



太平洋戦争下、延べ約3万6000人が赤紙で召集され、1000人以上が命を落とした日本赤十字社の看護婦。資料や証言がなく、存在を知る人から幻ともいわれた救護班「熊本第六六八」の元看護婦(93)が初めて取材に応じました。戦死、戦傷した4人の兄の仇を討つため看護婦となり、「兵隊さんを慰めてあげたい」一心で初任地の長崎県・佐世保海軍病院に入ります。負傷者が激増し、「女楼や」を借り上げた佐賀県・武雄温泉では特攻兵を見送りました。そして、原爆投下後間もない長崎市の救護所では、手の施しようもなく、山となった死体を焼く臭いの中で終戦を迎えました。任務は続きます。戦後は、心を病んで前線から戻された「精神病棟」の元兵士の看護が始まります。貴重な証言から、戦争の悲惨さ理不尽さに迫ります。

日曜朝は『S』で始まるー。ストーリーにご期待下さい。

この国はどこへ行こうとしているのか

小説家の赤川次郎さんに聞く

夕刊2面特集ワイド8月4日(火)

赤川次郎さん=写真=はかつて、「作家は作品で自分の思いを表現するのが本分で、政治的な発言は控えるべきだ」と考えていたそうです。しかし今は、安全保障関連法案の成立へと突き進む政権の動きに対し、「黙っているわけにはいかない」と積極的に発言をされています。衆議院で強行採決された安保関連法案の審議は参議院に舞台が移っていますが、赤川さんを駆り立てるものは何なのでしょう。我々はどう考えるべきなのでしょう。「作品数は日本一」とも言われるベストセラー作家の赤川さんにうかがいます。



戦争知らぬ世代として

朝刊文化面 8日(土)

戦争がさまざまなジャンルの表現に何を及ぼしてきたかを探る「創作の原点 戦後70年」。今回は、故井上ひさしさんの未完の遺作を引き継ぎ、戯曲「木の上の軍隊」を創作した劇作家の蓬萊(ほうらい)竜太さん(39)です。戦争を知らない世代として、戦争をどう描くか。苦闘の末、蓬萊さんは「自分の息子に戦争を伝えるにはどうしたらいいか」という視座にたどり着きます。



「Tokiko's Kiss」

おんなのしんぶん



8月3日(月)

月1回掲載の加藤登紀子さんの対談コーナー。今回のゲストは、元衆院議長の河野洋平さんです。「村山談話」には副総理兼外務大臣としてかわり、アジア諸国との友好関係構築に尽力してきた河野さん。

安保関連法案や安倍首相が唱える「積極的平和主義」に厳しい注文をつけています。「私たちが命がけで声を上げなきゃいかんですね」と覚悟を決めて発信するその内容とは……。見出しは「戦争しない国のブランドを守る」です。

食・夏こそ体を冷やさない食べ方

くらしナビ面 8月4日(火)

うだるような暑さが続いています。クーラーをつけっぱなしで、冷たいものをがぶがぶ飲んで、薄着で暮らしていると、知らず知らずのうちに体は冷えています。血行が悪くなって肩こりがひどくなったり、疲れもとれにくくなったりしがちです。暑い夏こそ、体を冷やさない食べ方をこころがけると良いのです。旬の野菜を使った簡単に作れる体を冷やさない料理を紹介します。



銃後のくらし

くらしナビ面 8月7日(金)

太平洋戦争の当時、非日常の中にあっただのは戦地に赴いた人ばかりではありませんでした。戦況の悪化とともに人々の暮らしも脅かされ、生活そのものが生きるための戦争だったと言えます。衣類、食、ペット、近所づきあい、そして、ほんろうされる子どもたち……。暮らしの中に入り込んだ戦争の影を、体験者の話や当時を伝える資料から追いました。

「支配した国 強制の記憶」

2面 8月4日(火)より

2面の長期連載「戦後70年」の新シリーズが4日から始まります。敗戦国の日本は、戦後、旧植民地の独立闘争を経験しなかったため、支配された側の苦しみをなかなか理解できない面があります。歴史認識問題の多くは、戦時下の使役が強制か否かという対立として現れます。今回の連載では、支配した側とされた側のすれ違いの根源を探り、分かり合う道を考えます。



「夏の甲子園」開催

6日(木)から15日間

第97回全国高等学校野球選手権大会(日本高校野球連盟など主催、毎日新聞社後援)は6日から20日までの15日間(雨天順延、準々決勝翌日の休養日1日を含む)、兵庫県西宮市の阪神甲子園球場で開催されます。出場チームは全国47都道府県の49校。今大会は夏の高校野球100年を記念し、1915(大正4)年の第1回大会に出場した10校の当時のユニホームを復刻し、6日の開会式で現役部員1人が着て入場行進します。第1回大会で優勝した鳥羽(京都、当時の京都二中)が15年ぶりに出場するほか、春夏連覇を目指す敦賀気比(福井)、1年生スラッガー、清宮幸太郎選手=写真=が注目される早稲田実(西東京)などが注目されます。組み合わせ抽選会は3日に開かれます。



女子ソフトボールのJAPANCUP開催

7日(金)~9日(日)

「2015 JAPANCUP 国際女子ソフトボール大会 in 大垣」(日本ソフトボール協会、毎日新聞社主催)が7~9日、岐阜県大垣市で開催されます。大会は5年ぶりの開催で、昨年の世界選手権で優勝した日本、上位に進出した米国、オーストラリア、台湾の4カ国・地域が参加します。日本は2008



年北京五輪金メダルの立役者となった32歳のエース、上野由岐子選手ら17人が出場。野球とともに20年東京五輪での競技復帰を目指しているソフトボール。今大会でその機運が高まることが期待されます。日本は7日にオーストラリア、台湾、8日に米国と予選リーグで対戦。決勝戦、3位決定戦は9日に行われます。夏の甲子園と同様に、もう一つの真夏の球宴も毎日新聞でお楽しみください。

毎日小学生新聞

毎日小学生新聞の売り物

記事はこれ！

毎小戦後70年展



毎日小学生新聞のレギュラーイラストレーター9人が、戦後70年をテーマに思い思いのイラストを描きました。3日（一部地域は4日）より、1日2作品ずつ紹介します。イラストを見ながら、親子で戦争について話し合ってみては。

私立中高一貫校公開座談会シリーズに優先招待

関東、関西の超一流私立中高一貫校の校長が対談する、大人気企画が今年もスタート。第1弾は麻布中学・高等学校と女子学院中学・高等学校です。両校の校長が、親子向けに教育を語ります。中学選びを大学進学率で選んでいませんか。私立はさまざまな校風を持っています。ぜひお子様にあった校風を探して下さい。また、一流校の校長の話は、わかりやすく知的好奇心を呼び起こします。お子様が自分から勉強機に向かうでしょう。詳しくは6日付の紙面で。

